



# 卓話

その中には職業倫理的な項目も様々な形で表現されています。

立命館大学の足立教授が調べられたところによると、次のように整理されています。

- |            |        |
|------------|--------|
| 1. 家名継承    | 9. 分限  |
| 2. 祖先崇拝と信仰 | 10. 儉約 |
| 3. 孝道      | 11. 遵法 |
| 4. 養生      | 12. 用心 |
| 5. 正直      | 13. 陰徳 |
| 6. 精進      | 14. 和合 |
| 7. 堪忍      | 15. 店則 |
| 8. 知足      |        |

## 卓話 「江戸時代の職業奉仕」 根岸 宏光会員

### 商業道德の教え「石門心学」

ロータリークラブの原点が職業奉仕にあることは、ご承知のとおりです。

しかし、綱領を見ても、1989年に理事会で採択された職業宣言を見ても、非常に高邁な精神が書かれているものの、具体的に何をするのか、どのような行動をとればいいのかは示していません。

もう少し具体的に示して、参考になるものはないのかと調べたところ、江戸時代の文にそれを見つけました。

「石門心学」です。これは、江戸の中期から関西を中心に町人社会に発展した商業道德の教えです。石田梅岩という人が広めたものです。



### 石門心学が生まれた背景

徳川幕府も、成立 100 年を過ぎると、様々な問題を抱えてきます。

ときは元禄時代。米の経済から貨幣の経済へと移り、華やかな時代を思い浮かべますが、その実態は、全国各地で一揆や打ち壊しが起こり、幕府もそれを抑さえるために躍起になり、矢継ぎ早に政令を出した時代でした。病弊する農村に対して、富を蓄えた商人たちは、お金の力で、吉原の総揚げをやったり、お内儀さんの衣装比べに江戸から京都にまでわざわざ上ったりするなど、度を越した贅沢を意に介さない有様でした。

それを憂えた町人は、持続的な発展のためには、武士階級に朱子学があるように、自分達のバックボーンが必要とを感じるようになったのです。

そんな時代に生まれたのが、石田梅岩の石門心学です。

### 石門心学の基礎は老舗の家訓

石門心学の基礎となったのは、老舗の家訓です。

昔から京都には、長い歴史を誇るお店がたくさんあります。こうしたお店には、代々積み重ねてきた経験があり、

### 商道德の根本は正直にあり

梅岩は、商道德の根本は「正直」にありとし、商人道も正直の徳以外になしと考へ、不実の商いを排して「売り手の仕合せ、買い手の幸せこそ、商いの本意」としています。

石門心学は、弟子たちによって全国に広められ、やがて武士社会でも受け入れられて各地の藩邸でも講義が行われています。

梅岩自身も、松平定信の命で、佃の人足寄場で講義をした記録があります。

しかし、この石門心学も、明治時代に入って義務教育の普及とともに、急速に忘れられて行きました。

### 日本人のもつ抑制心を取り戻す必要

欧米の社会に、このような職業倫理の教えがあったことを知りません。

大体、日本人は、本来自分を律することのできる特質を持っている国民のようです。

16 世紀に日本に来たザビエルも、ローマへの報告書の中で、日本人のもつ抑制心を賞賛しています。また、幕末から明治の始めに来日した外国人たちは、その滞在記の中で褒めています。

日本人の特質である「抑制心」が、近年だんだん失われていくようです。

もう一度、日本人は、自分を律する心を取り戻す必要があり、その手段としてのロータリー活動になればと願っています。

ご静聴ありがとうございました。